

環境に配慮した「伝統野菜 最上赤にんにく」の栽培

東北農林専門職大学附属農林大学校 野菜経営学科 悪原蒼太



課題設定の理由

労働生産性が高いにんにくに 着目し、その中でも、伝統野菜として付加価値をつけることができる、「最上赤にんにく」を試験しようと考えた。最上赤にんにくは最上地域で昔から栽培されている作物である。このような伝統野菜の良さをたくさんの人に知ってもらい需要を高めていきたいと考えた。そこで、環境に優しい栽培を実践するために耕種的防除法や有機 JAS に適合した資材を用いた栽培に取り組んだ。



図1 収穫時の様子(6月 12 日)



図2 試験圃場(5月 22 日)

試験結果

- 1 葉数、草丈、茎径に大きな差は見られなかった。(表1)
 - 2 球重が最も重くなったのは、被覆＋無防除区だった。(表2)
- 環境に配慮した3区の中で被覆＋防除区が最も収量が多かった。(図

表1 生育(6月 11 日)		20 株平均		
試験区	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	
被覆＋防除区	7.4	73.0	11.7	
被覆＋無防除区	7.4	73.9	12.0	
無被覆＋無防除区	7.3	71.0	11.9	
慣行区	8.2	75.2	13.0	

※防除は有機 JAS に適合した農薬を使用

表2 収量(6月 12 日)		20 株平均			
試験区	全重 (g)	根重 (g)	茎重 (g)	球重 (g)	
被覆＋防除区	86.9	1.5	7.3	37.6	
被覆＋無防除区	90.6	1.9	6.4	40.0	
無被覆＋無防除区	79.6	1.5	5.8	34.1	
慣行区	94.4	1.7	7.5	41.3	

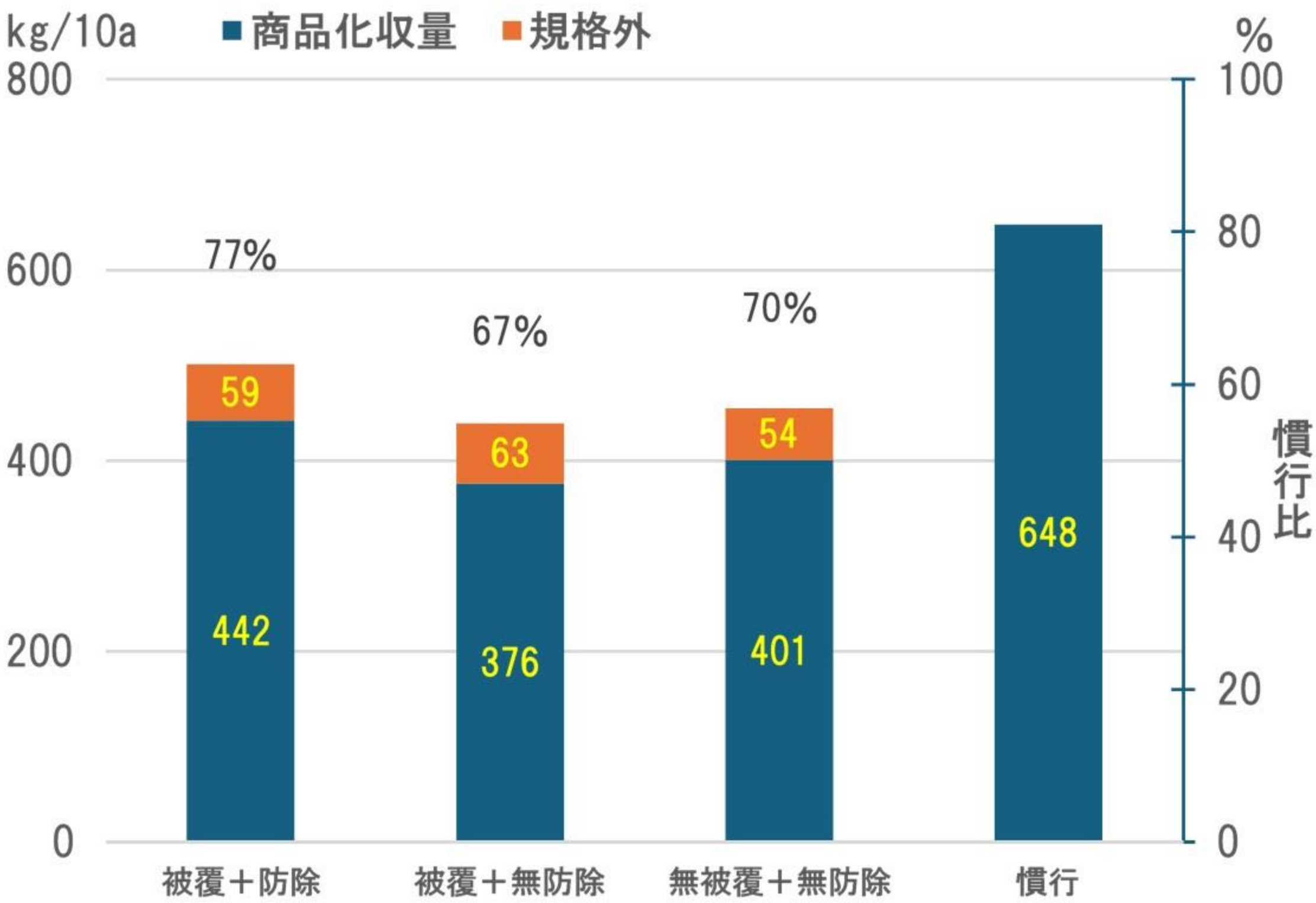


図3 収量

考察・今後の課題

化学合成肥料、化学農薬を使用しなくても慣行区の約 70%を収穫することができたため、付加価値をつけるなどの販売戦略で十分経営が可能であると考えます。

※参考文献等:令和2年度最上伝統野菜「最上赤にんにく」栽培講習会資料
ニンニク -球・茎・葉ニンニクの栽培から加工まで-(大場貞信 農文協)
ニンニクの有機栽培(自然農法国際研究開発センター)